

景観デザイナー 東京学芸大学名誉教授

# 伊藤

ITO  
Kiyotada

# 清忠

さんに聞きました

今日は、ご自身で撮影された世界の街並・集落や、土木施設、建築、世界遺産などの写真、三、二四五点を土木学会に寄贈頂きました伊藤清忠さんに、ご経歴や撮影のお話などをお聞きしようと思います。

## 五十年前に歩み始めた 景観デザインへの道

——先生のご経歴を少しお聞かせください。

**伊藤**——一九五三年、高等学校二年の時、インダストリアルデザインを知り勉強を始めました。その頃から観た「サルギナトーベル橋」の写真が印象に残りました。それから約五十年、景観デザイン関係者では最も早くにデザインに関わった一人でしょうか。  
東京芸術大学では、インダスト

リアルデザインを学びました。授業の合間に、国立博物館と国立科学博物館には毎週、日本民芸館には毎月通いました。民芸館である日「お茶をどうぞ」と部屋に通され驚きました。そこには、浜田庄司、バーナード・リーチ、棟方志功、大原総一郎、松方三郎さんが談笑しておられ、時々「学生さんどう思う？」と尋ねられ、懸命に答えたのを鮮明に覚えています。

また、景観デザインを含む環境デザインに興味を持ちましたが、当時の大学にはなく、吉村順三先生の講義や都市計画、日本人初のバウハウス留学生・水谷武彦先生の「構成原理」などを受講し、環境デザインの自学自習を進め、「安宅賞」をいただきました。

卒業の年に日本初の芸術系大学院が設立され、産学協同の映写機で「Gマーク賞」を受賞し、日本

最初で唯一人のインダストリアルデザイン修士になり、非常な責任を感じました。大学院修了後、玉川大学に七年、東京学芸大学に三十年勤務し、研究・教育と同時に景観・土木デザイナーとして、様々なプロジェクトに参画しました。

## 海外三八〇余りの 都市・村落を体験し撮影

——写真を撮影された時のお話しをお聞かせください。

**伊藤**——私は旅行が大好きで、現地で実物を観て体験しないと納得できないため、学部・大学院の春夏の休暇に二、三週間、復帰前の沖縄を除く全都道府県の街並・集落、土木施設、建築、工業試験所、民芸産地など、計二〇〇日以上巡り撮影しました。当時は、伝統的な街並・集落が各地に残っていま



写真-2 バタン橋 (中国/孟江)



写真-1 タナ・トラジャ(インドネシア)

聞き手  
石田有三  
元・編集委員

したが、高度成長に伴い急速な破壊が進行中で、十津川では、集落や河川、吊橋などの保存を役所に訴えましたが理解されず、自分の無力を思い知らされました。

大学勤務以降は、まず、復帰前の沖縄を訪ねましたが、海外の街並・集落、土木施設などを現地体験したい気持ちを抑えきれず、日本人渡航者四十九万人、一ドル三六〇円、外貨持出枠五〇〇ドルの一九六九年の台湾を皮切りに、一九七〇年には、一歳と二歳の娘を双方の親に預け、妻とリュックを担いで欧州・中東を九十九日間巡り、四ヶ国語で出版した著書の印税一五〇万円(当時の月給手取り三十三ヶ月分)を使い果たしました。当時、「イスラム」の情報は入手困難で、イスラム圏は大変新鮮でした。一九七〇年代は、特別な場

所以外では日本人に会うことなく、日本の存在や位置を知らない人や日本人に会うのは初めての人も珍しくありませんでした。以後、計六二八日を費やし、四ヶ国、新旧・大小三八〇以上の都市・村落を訪ねました。相続した株券などや給料の多くは旅費と写真関係に消えました。

訪ねた美しく魅力的な街並・集落では、住民が営々と築き、愛着と誇りを持って維持していることが大変印象的でした。日常を過ごす街並・集落こそ美しく魅力的であつてほしいと痛感しました。生活の場である街並・集落は常に住民に影響を与え続け、特に子供や青少年に与える影響は顕著だと思われまます。

手付かずの自然は美しく魅力的です。しかし、そこに人が関わ

ることで醜悪な景観となることが少なくありません。高度成長期以降の日本をはじめとする急激な経済成長が進む国々では、景観の混乱と破壊が進んでいます。

景観には、国・民族の気候、地形、時代、宗教、政治、経済などに対する感覚や姿勢が現れ、美しく魅力的な景観は、独自性があると同時に普遍的で説得力があります。各伝統の独自性・多様性を尊重し、伝えると同時に、生きた時代の力を結集して、新しい伝統「未来の世界遺産」を創造する責任があります。自分自身を厳しく研ぐと同時に、内外の優れた街並・集落、土木施設、世界遺産などに直に接して、五感を精一杯働かせ体験し、その場で考え、謙虚に学ぶことの大切さを確認しました。一流を体験せずして、デザインの適否・優劣を判定するのは不可能です。海外に身を置くことで、日本や自分自身も観えてきます。

## 街並・集落、土木施設、 建築、世界遺産などを公開

写真を土木学会に寄贈され

ましたが、どのようにすれば先生の写真を拝見できるのですか？

**伊藤**——世界各地の街並・集落、土木施設、建築、世界遺産などを七万余千点撮影しました。そこから三、二四五点を選び、土木学会附属土木図書館と国土交通省中部技術事務所A三出力可能なデジタル情報として公開していきます。それぞれ手続きをして頂ければ、研究用、教育用、報告書などに無料で使用できます。

世界遺産は、一〇一件を巡り、その内、登録前に七十八件を訪ね撮影しました。NHKとユネスコの「世界遺産アーカイブス」にも写真を四九二点提供し、放送、展示、出版物、ホームページなどに使われていますので、ご覧ください。

——本日は貴重なお話しをありがとうございました。

国土交通省中部技術事務所  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/chugi/>

「景観デザイン・フォトライブラリー」  
土木学会附属土木図書館 <http://www.jsce.or.jp>  
「土木図書館」▶「デジタルアーカイブ」▶  
「伊藤清忠 景観デザイン・フォトライブラリー」



### 主な作品

- ・フォレストブリッジ
- ・柳都大橋
- ・逢妻川護岸
- ・逢妻さくら橋
- ・長島ダム など

- ・土木学会デザイン賞
- ・日本デザイン学会作品集選定掲載
- ・Gマーク賞